

標 題 : Apolipoprotein E genetic variants interact with Mediterranean diet to modulate postprandial hypertriglyceridemia in coronary heart disease patients: CORDIOPREV study.

アポリポタンパク E の遺伝的変異体は地中海食事と相互作用をして冠状動脈性心疾患の患者で食後の高トリグリセリド血症を調節する : CORDIOPREV 研究

著 者 : F. Gomez-Delgado, et al. (スペイン IMIBIC/Reina Sofia 大学病院/
コルドバ大学、 脂質・アテローム性動脈硬化部門)

掲 載 誌 : Eur. J. Clin. Invest. 2019 Aug; 49(8): e13146

要 旨 :

背 景 : 2種類の健康的な食事パターン(低脂肪食事または地中海食事)の長期間摂取がアポリポタンパク E(APOE)の単一ヌクレオチド多型(SNPs : rs439401、rs440446 および rs7412)と相互作用をして、冠状動脈性心疾患の患者で食後の高トリグリセリド血症を調節するかどうかの研究を、我々は試みる。

方法および結果 : 遺伝子型決定および経口脂肪負荷試験を開始時と追跡3年後に実施したかによって、我々は CORDIOPREV 研究から患者を選別した(n=506)。

3年間の追跡後に、APOE rs439401 SNP と地中海食事との間に遺伝子-食事相互作用を、我々は見いだした。

特に、地中海食事群の T-対立遺伝子キャリアは CC 被験者と比較して、食後トリグリセリド(TG : P=0.03)および大きな高トリグリセリド リポタンパクの TG (大 TRLs TG ; P=0.01)のより多くの低下を示した。

一貫して、TG の曲線下面積 (AUC-TG ; P-相互作用=0.03) および AUC-大 TRLs TG(P-相互作用=0.02)は、T-対立遺伝子キャリアで CC 被験者と比較して有意に低かった。

結 論 : 地中海食事の長期間摂取は、冠状動脈性心疾患の患者で APOE 遺伝的変異体を通して食後の高トリグリセリド血症を調整する。

この遺伝子-食事相互作用は、冠状動脈性心疾患の患者でさらに詳細な食事助言に寄与する可能性がある。

© (著作権) 2019 年 財団法人、ヨーロッパ臨床試験学会の学会誌財団。

キーワード : APOE 遺伝的変異体、CORDIOPREV 研究、地中海食事、遺伝子-食事相互作用、食後脂質異常症
